

平成30年度 徳島県立鴨島支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立鴨島支援学校長 久田 真由美

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	久田 真由美 森本 真由美
学力向上推進員	教務課長	中 史治
委員	小学部長 中・高等部長 小学部教務主任 中・高等部教務主任	新居 由紀子 近藤 美和子 細川 さな恵 土井 哲士

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

(小 学 部 ) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況		
<p>慣れない場所や集団で活動することに対して不安や戸惑いもあるが、好きな活動に見通し持って参加することにより、活動を楽しんだり個々の力を発揮したりすることができる。</p>	<p>課題</p> <p>児童数が少ない上に学級単位の人数も少なく、子ども集団を形成することが難しい。子ども同士の学び合いの場も限定される。大きな集団で、ダイナミックな集団活動を体験する機会がほとんどない。</p>	
<p>具体的目標(目指す子どもの姿)</p> <p>・交流及び共同学習に参加し、様々な経験を通して社会性が向上したり、相互の理解を深めたりすることができる。</p>	<p>成果指標</p> <p>・児童一人一人の実態や目標に応じた挨拶ができる。 ・交流相手校の児童とともに落ち着いた態度で活動することができる。 (上述の成果指標を達成できたかどうか教員にアンケートをとり、7割以上で達成とする。)</p>	<p>達成状況</p> <hr/> <p>評価</p>
<p>具体的方策(教員の取組)</p>	<p>取組指標</p>	<p>取組状況</p>

<p>[学校間交流]          ・両校の交流担当者間で連携を密にして計画的に実施する。1学期に3回、2学期に1回直接交流を、作品展やおたより等の間接交流を適宜実施する。          ・5月に、交流担当者が相手校に出向いて授業をすることで、本校や小学部の児童についての理解を深める。その後で、本校の児童の興味関心や現状に応じた交流及び共同学習を行うことにより、お互いを意識したり理解し合ったりすることができるようにする。          ・活動の様子や作品等をまとめ、学部の交流コーナーに掲示して校内に紹介する。また、運動会や学校祭等の行事では、地域や来場者への広報に活用する。</p> <p>[居住地校交流]          ・対象児童や保護者の希望を基に、相手校と交流及び共同学習を実施する行事や教科等や授業内容の検討を行い、計画案を作成して実施する。</p> <p>[ホームページ]          ・年間を通して、計画的に交流及び共同学習の様子をホームページに掲載して、社会に広報していく。</p> <p>-----          * 中間期の見直し</p>	<p>[学校間交流]          ・児童の実態に応じて、直接交流を年4回、間接交流を年1回以上実施する。          ・本校の教員が交流校において出前授業を年1回実施する。その後の交流及び共同学習実施時の相手校児童へのアンケートで、「楽しく活動できた」「鴨島支援学校の友達のことがよくわかった」の回答がそれぞれ8割以上となる。          ・活動の様子等を小学部交流コーナーに年5回掲示する。</p> <p>[居住地校交流]          ・交流及び共同学習の実施にあたり、相手校と交流内容の検討を行い、計画的に年3回以上実施する。</p> <p>[ホームページ]          ・交流及び共同学習時の活動の様子等を、年5回以上ホームページに掲載する。</p>	
達成状況を踏まえた改善事項		

(中・高等部) 幼児児童生徒の状況		
よさ		課題
	具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標
	<p>人に対する関心や関わりたいという気持ちは、それぞれにあると思われる。コミュニケーションを取っていくと、次第に打ち解けて話せるようになっていたり、表情等で表現しようとする生徒が多い。</p> <p>・卒業後に向けて、人との関わりの中で社会性やコミュニケーション能力を高め、QOLが向上する。</p>	<p>人との関わりで経験不足の点については、いろいろな取組によって経験を積み重ねることにより、補っていく必要がある。また、校内の児童生徒、教員だけでなく、地域の人々や交流校の児童生徒等、様々な人との関わりが特に重要である。</p> <p>・校外の人々と挨拶ができたり、それぞれの方法で関わりを持つことができる。          ・学部集会等に主体的に参加したり、役割を果たしたりできる。          (上述の成果指標を達成できたかどうか教員にアンケートをとり、7割以上で達成とする。)</p>
		----- 評価

具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学式や卒業式, また長期休業中の生活などに関する学部集会において, 生徒が主体となって計画や進行を行う。</li> <li>・総合的な学習の時間に, 個人またはグループで, 進路学習, 人権学習, 防災学習についての発表会を実施する。</li> <li>・総合的な学習の時間や実態別のグループ学習を通して戸外での散策や地域オリエンテーリング, 買い物学習などを行い, 年間を通して学校周辺の人と積極的に関わる活動を計画して実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒主体の学部集会を年間7回以上実施する。</li> <li>・総合的な学習の時間に, 実態に応じてグループや個人による中高合同の発表会を年間5回以上実施する。</li> <li>・校外へ出て, 学校周辺の人と関わる学習を年間5回以上実施する。</li> </ul>	
<p>-----</p> <p>* 中間期の見直し</p>		
達成状況を踏まえた改善事項		